

# 生活チーム

項目	目標	基本施策	施策	具体的事業・活動内容
福祉・医療・健康	健やかな生活	身近なところで介護や医療が受けられる	・医療や介護が必要になったとき、短時間で負担の少ない距離にある診療所や介護保険施設わくわく館は、日常生活に重要な施設です。	・病気や健康に関することは身近な診療所にかかりましょう。 ・介護や介護予防を受ける 135.7 ことは恥ずかしいことではないことを理解し、利用しましょう。
		高齢者等を支援する	・一人暮らし高齢者や高齢者世帯などで地域での支援が必要とされています。「地域力」「近所力」を発揮しましょう。	・民生委員や福祉委員と協力して声かけ、見守りをします。困った時は気軽に声を掛け合えるよう、普段からよいお付き合いします。 ・緊急の場合、連絡の仕方をわかりやすくしたマニュアルを作成します。地域内の電話帳を作ります。
		健康づくりを進める	・体育協会での事業やサークル活動、また各自で歩くなど健康づくりを進めます。	・公民館や体育協会の行事に積極的参加します。 ・子どもや高齢者ばかりでなく地域全体でラジオ体操に取り組むとともに、各自で運動したり、歩いたりして健康づくりに努めます。
生活	安心した生活	小売店の利用する	・農協の購買部の閉鎖やガソリンスタンドの経営者の交代などから地区内の店舗の存続が不安視されています。	・地元の店や施設を利用していつまでも続けられるよう利用しましょう。
		公共交通機関を利用する	・高齢者や子どもなど自動車に乗れない人のため JR や市営バスを残しましょう。	・存続のために 1 回でも多く利用します。 ・割引制度を案内します。
		空き家の活用する	・人口減少に伴い空き家が増加しています。人口増加を目指し、景観、安全面からも定住促進を図ります。	・空き家の状況調査を行います。売却や賃貸物件として所有者の承諾が得られれば、市の「越前おおの空き家情報バンク」や市の移住をサポートする支援制度活用を勧めます。若者ばかりでなく、定年退職後の方や高齢者の受け入れ体制を整えます。
教育	子どもは地域の宝	子どもが増えるとうい	・子どもは地域の宝です。地域で子どもを育てます。子どもの数は年々減少し、現在は小中学校あわせて 30 人も満たしません。そこで市外からの留学を受け入れます。	・留学制度の研究をします。例えば①四季を通じて 1 年間の受け入れ②豪雪地帯を体験する冬季だけの留学。③スキー強化留学。 ・子育てを終えた家庭や高齢者世帯など、受け入れられる家庭の調査をします。